

## 今日のみことば

### □ 3月18日(日) サムエル記上 13章

サウルは手柄を立て、人々はペリシテ人からの支配から救われるかとの希望を持ったが、サウルはその成功におごって謙遜が高慢に変わりました。預言者の越権行為をしてしまった。

### □ 3月19日(月) サムエル記上 14章

ここにはヨナタンの戦功が記されている。彼はその生涯を通して、恐れを知らない勇士であった。サウルのヨナタンに対する無思慮を通して民は、愚かな王を持ったことを知った。

### □ 3月20日(火) サムエル記上 15章

サウルは故意に神に逆らった。このことのためにサムエルから「主の言葉を退けたので、主もあなたをイスラエルの王位から退けた」と不吉な宣告を受けた。

### □ 3月21日(水) サムエル記上 16章

サムエルは神の命令に従ってエッサイの子ダビデに密かに油を注いだ。ダビデは油を注がれたことによって、霊的力を与えられた。神は再びご自分の人を選び、彼を捕らえられた。

### □ 3月22日(木) サムエル記上 17章

ペリシテ人ゴリアテは大男で、よろいかぶとで完全武装していた。羊飼いであったダビデは、信仰と非常に正確な石投げ技術を持っていた。彼は勝利をおさめ、国民の地を湧かせた。

### □ 3月23日(金) サムエル記上 18章

ダビデの名声が高まるにつれてサウルのねたみと疑いは大きくなり、殺害計画を立てるまでになった。神はサウルの下劣な手段を打ち砕かれて、神はご自分の目的を達せられた。

### □ 3月24日(土) サムエル記上 19章

ヨナタンは王位後継者であったが、ダビデが神によって王に定められたこと知った。彼は自分の榮譽を喜んで捨て、しかも我を忘れて競争相手を愛しました。史上最高の物語です。

---

ろ ぼ No. 1859  
2018年 3月18日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

マルコ 15:15

ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

イエスの十字架の周りにいた人たちが。ユダヤペトロもさることながら、イエスが十字架につけられることになった発端は、ピラトの行動です。ピラトは皇帝ティベリウスの時、ユダヤに赴任しました。アグリッパ一世によれば「頑固で残忍な人間、気まま勝手に刑を執行するなど、残虐な行動をする人物」とその評価はいいものではありません。ユダヤに赴任した時はエルサレムにローマ皇帝の像が刻まれた軍旗を持ち込み、ユダヤ人たちに偶像を持ち込むと猛反対にあって引込めたり、ユダヤ人の心を逆なですることしばしばでした。

どうしてもイエスを無き者にしたかったユダヤ人の指導者たち、祭司長、長老や律法学者たちユダヤ教の最高法院全体は、ピラトに

訴えました。宗教裁判での死刑判決は、ローマ帝国の属領にはありませんでしたからピラトに訴えました。

ピラトは訴えられたイエスとどう対峙しましたか。神の御心であったとはいえ、預言が成就するためであったとはいえ、ピラトの浸潤に私は心を向けさせられるのでした。確かにピラトは常ならぬ人物であったことは確かです。イエスの問題が持ち込まれたときは、いったんは、自分たちで処理せよと突き放しましたが、ローマの属領の出来事として処理することを求められて、イエスを尋問いたしました。その問答の結果は、訴えられる問題でイエスに罪は認められないと判断をしました。ガリ

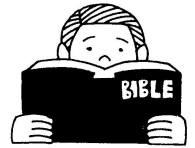
ラヤ地方長官ヘロデとの立ち会いにおいても罪状を認知することは出来ませんでした。そこでピラトが、総督としての明確な判断をしていたならば、その後の結果は違ったものになっていたはずですが、私はそこでのピラトの思いをのぞき見させていただかずにはおれないと言うことです。そしてこれは、このイエスの十字架の出来事を通して、私たちがしっかり見つめさせていただくことでもあろうと思っています。

私はこのことだけでなく、イエスの十字架の出来事に立ち会った人たちに見るものでした。最後にピラトは「群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した」のでした。これは何を私たちに語るのでしょうか。私はどんなに口を酸っぱくしてペトロが「知らないとは決して言わない」といった行動を思わせるのでした。人間の弱さです。私はそうだからこそ人だと思っています。自分かわいさで群衆に迎合したピラトはいざ知らず、神第一を生きる私たちには耐えがたいことです。私はある人から、先生は御心に生きると語られるが、実際の行動がそうでなかったら、言行不一致と言われる、と言われました。ほんとうに肝に銘じさせられましたが、このピラトの出来事を通して私は、イエスの十字架とどのように向きあっているかをもう一度問われることでした。神さまに尋ねても、沈黙でしょう。焦って何か行動を起こしますか。「人間にはできないが、神にはできる」とイエスの言葉を心に留めさせていただき、イエスの十字架と向きあって待つのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
マルコ 15:33-47 十字架のもとで

十字架上でのイエスは孤独でした。福音書記者たちは、イエスは十字架上で6時間もの間、肉体的な苦しみに遭ったことを報告しています。そして全福音書が、イエスの苦しみは「私たちのため」であったと断言しています。

この状況の中で、弟子ではない異邦人である百人隊長の「本当に、この人は神の子であった」との証言が記録されているのですか。これを全人類を救いの証言ととるだけでなく、逃げた弟子たちとの対比で私は聞くことでした。一度はイエスの処刑を認めたアリマタヤのヨセフでしたが、イエスの亡骸を引き取り埋葬しました。実に様々なことを私たちに伝えてくれますが「神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた」との出来事を通して、神さまの思いをしっかり聞かせていただくのでした。イエスの死を通して神は、私たちとの中垣を取り除いて下さった。百人隊長の証言通り「この人は神の子」でした。



Read God's Word.

次週の聖書・説教	マタイ27:15-26 バラバか、イエスカ
----------	-----------------------